

～ 東北 関東 大震災 関連 ～

～義援金協力状況ご報告～

東北関東大震災JAERA義援金へのご協力に感謝いたします。多くの皆さまからご協力頂き、現在までのお振り込み件数は既に75件に上っております。jaeraニュースレターVol.15に記載した以降にお振り込み頂いた皆さまは以下の通りです。

《協力企業、団体名》()内は所属 ～敬称略～

- (株)リサイくるまっち (賛助会員)
- (株)松山
- (株)モロオカ自工 (千葉県自動車解体協同組合)
- (有)オートパーツ・ムラサト (ELV熊本協同組合)
- (株)共栄自工 (東京自動車リサイクル協議会)
- (有)福港商会 (シーアール福岡協同組合)
- 岡山県自動車リサイクル協同組合
- (有)和氣商店 (岡山県自動車リサイクル協同組合)
- (有)サクライ自動車商会 (千葉県自動車解体協同組合)
- 北九州ELV協同組合
- (株)ステアリンク (千葉県自動車解体協同組合)
- 愛媛自動車部品リサイクル協同組合
- (株)ケー・シー・ティー (岩手県リサイクル協議会)
- 江澤商会 (千葉県自動車解体協同組合)
- アール・ループ(株) (千葉県自動車解体協同組合)
- 大分県ELV商業組合
- JAERA事務局一同
- 豊工業(株) (東京自動車リサイクル協議会)
- (有)会津商店 (東京自動車リサイクル協議会)
- 光商会(有) (千葉県自動車解体協同組合)
- 宮崎県自動車リサイクル協同組合
- 篠本自工 (東京自動車リサイクル協議会)
- (株)根津自動車販売 (東京自動車リサイクル協議会)
- (有)名古屋解体 (ELV愛知リサイクル協会)
- (有)宇野自工 (岡山県自動車リサイクル協同組合)
- (有)田崎商店 (茨城県自動車リサイクル協同組合)
- (有)遠藤産業 (山形県自動車解体協議会)
- (株)有原商店 (東京自動車リサイクル協議会)
- 西山興業 (新潟廃車処理協同組合)
- (株)ユピック (JPA)
- (株)オートリサイクル長野 (テクルスネットワーク)

- (株)北原産業 (山形県自動車解体協議会)
 - (株)カネタニ (千葉県自動車解体協同組合)
 - 丸和産業(株) (千葉県自動車解体協同組合)
 - (株)共栄自工 (東京自動車リサイクル協議会)
 - (有)三栄 (茨城県自動車リサイクル協同組合)
 - (有)白旗解体店
 - 中村産業(株) (東京自動車リサイクル協議会)
 - (株)野中商店 (東京自動車リサイクル協議会)
 - 豊田メタル(株) (賛助会員)
 - (株)奥野自動車商会 (石川県中古自動車部品協同組合)
 - 山陰ELVリサイクル協議会
 - (有)城丸商店 (新潟自動車処理協同組合)
 - (有)星野商会 (千葉県自動車解体協同組合)
 - (株)南商会 (北海道自動車処理協同組合)
 - (有)タクミ商会 (東京自動車リサイクル協議会)
 - (有)西川商会 (山陰ELVリサイクル協議会)
 - (株)群上産業 (岐阜県ELV協議会)
 - 古田富子 (群上産業)
 - 滋賀自動車リサイクル協同組合
 - (有)白土商会 (千葉県自動車解体業協同組合)
 - 千葉県自動車解体業協同組合 (以上52件)
- なお、募金開始以降のご協力者は累計75件、789万円となりました。

《訂正とお詫び》

jaeraニュースレター Vol.15(3月29日付け)に掲載しました募金ご協力者の名称に誤りがありました。謹んでお詫びし、以下の通り訂正いたします。

(誤)古谷解体 ⇒(正)古谷商店

～義援金募集は5月31日まで行ってあります～

- 1) 義援金名称 JAERA東北関東大震災義援金
- 2) 募集機関 日本ELVリサイクル機構
- 3) 募金額 105千円(口数制限なし)
- 3) 募集期間 2011年5月31日まで
- 4) 振込先 三菱東京UFJ銀行 新橋支店
普通預金口座 No.3188522

～事務局報告～

ELV機構では、今回の震災後の3月17日に開催した常任理事会において、関連の他団体に呼び掛けて「災害車両処理対策本部」を設置することを決定。その後、3月24日には、栗山代表、清水理事、多田事務局長らの東京勢、伊丹副代表らの北海道勢が仙台で落ち合い、被災された会員の施設を見舞った後、県庁で県担当部署と今後の協力体制につき意見交換を行った。その後、4月4日にはELV機構、リ協を始めとする関連団体を交えた第一回の対策本部会議を開催した。その場で、各団体互いに協力して、宮城県を皮切りに、被災各地において被災車両を撤去し、自治体が設置する保管場所に搬送する作業を、ボランティアで実施することを決定した。今後、長期

間に渡る復興支援をELV機構が継続的に実施すること、そしてこの経験を基礎に地域間、事業者間の災害時相互支援体制を構築しなければならないと考える。

日本ELVリサイクル機構
事務局長 多田熱

(※視察団が撮影した被災地の写真はP3に掲載)

《編集・発行者》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報チーム
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル
Tel: 03-3519-5181
Fax: 03-3597-5171
E-mail: jaera-office2@clock.ocn.ne.jp

4月第2週の鉄スクラップ動向

関東鉄源協同組合の共同輸出入札、落札平均は3万6565円
足元の関東地区炉前実勢価格と同水準に

12日に実施の関東鉄源協同組合（理事長＝渡辺淳・丸和商事社長）の鉄スクラップ共同輸出入札の落札結果は、数量1万ト、平均価格3万5656円（H2）となった。前回は674円安で、小幅ながらこれで3カ月連続の値下がりとなった。関東地区のH2炉前実勢価格は12日以降の各メーカーの値上げを受け、3万6千～3万7千円となったため、今回の落札結果は地場価格とほぼ同水準という結果となった。近年では、この入札結果は鉄スクラップ市況の実質的な先行主要指標のひとつとなっている。

渡辺理事長は入札後の記者会見で「今朝の予想からすれば想定内の価格。もっと辞退が増えるかと思ったが、入札資格を持つ商社の半分が応じた。足元は、放射能問題や船が回ってこないという実状があり、見通しが立てづらい」と見解を語った。

東京製鉄が8日付、12日付と連続でスクラップ購入価格を値上げ

東京製鉄は8日付（7日発表）、12日（11日発表）と短期間のうちに2回、鉄スクラップ購入価格の値上げ改定を実施した。両日とも値上げ幅は全工場1,000円。改定後の特級価格は岡山（海・陸）39,000円、九州（海・陸）39,000円、宇都宮37,000円。

関東地区 関東と新潟の製鋼メーカー各社が一斉に1,000～1,500円の値上げ

関東・新潟地区では、12日発表の東京製鉄の値上げ

▲を受けて、ほぼ全鉄鋼メーカーが鉄スクラップ購入価格を1,000～1,500円値上げした。これによりメーカー間の価格差が縮まり、関東地区のH2の実勢価格は36,000～37,000円中心、高値37,500円見当へと上押しした。湾岸浜浜は一部の受け入れ筋で36,500～37,000円と、こちらも3月末の水準と比べるとメーカー持ち込み価格と同様に値上がりした。その後は一旦様子見の状態だ。

東海地区 12日に一斉値上げ、需給ひっ迫感強まる

名古屋メーカー6社が12日から一斉にスクラップ購入価格を1,000～1,500円値上げした。H2の実勢価格は36,000～37,000円中心、高値37,500円見当。東京製鉄の動きに追随した形ではあるものの、震災後に自動車生産が1カ月余り休止するなど工場発生スクラップが大幅に減少したことで、東京製鉄の価格改定前から需給にはひっ迫感が強まっている。このため業者間では今後も市況を先高と見る向きが多い。

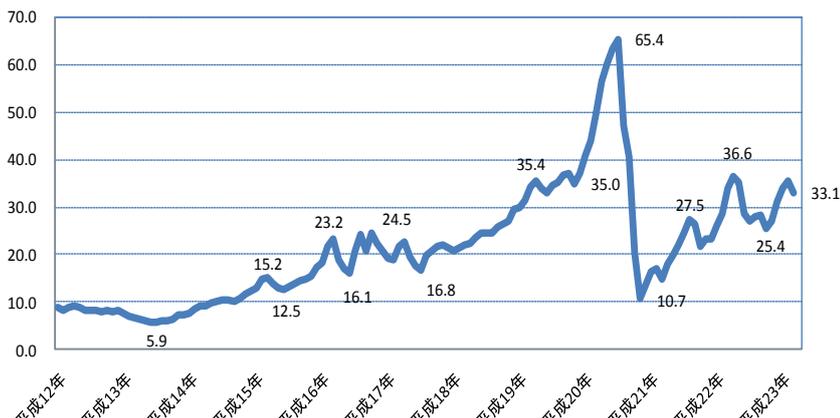
関西地区 追加値上げを実施するメーカーが出るなど市況は上昇基調が続く

関西の鉄スクラップ市況は上昇基調が続いている。12日に大阪地区電炉の大半が鉄スクラップ購入価格を値上げしただけでなく、13日にも追加値上げを行うメーカーが複数あった。一部では裏値を加算して実勢相場を上回る価格帯での引き合いもあり、元来の品薄感も手伝って高値追いの市況展開となっている。大阪地区のH2の実勢価格は、38,000～39,500円。姫路地区のH2の実勢価格は39,000～39,500円。

（※各地の価格動向は4月13日夕方時点のもの） ■

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移

単位：千円/ト



日刊市況通信社

4月第2週(13日)の国内スクラップ市中実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	36,000 ~ 37,500	値上がり
	南関東	36,000 ~ 37,500	値上がり
名古屋		36,000 ~ 37,500	値上がり
関西	大阪	38,000 ~ 39,500	値上がり
	姫路	39,000 ~ 39,500	値上がり

《編集後記》

- ◆ 未曾有の震災から早くも一カ月以上が過ぎた。始めは未だに続く余震に怯えていたが、だんだん慣れっこになったのか、ぐらっときても「震度3」などと落ち着いている。しかし、緊急速報に見る同じ地震の被災地での震度は、あの日の東京の震度かそれ以上。さぞかし、怖い思いをされているかと思うと、慣れてきて軽口をたたいている自分が恥ずかしい。
- ◆ イタリア在住の作家塩野七生さんが今月号の文芸春秋

で、今の日本人にとって「何よりも重要なことは、我々日本人の間で、批判や非難や攻撃をし合わないこと」と言っている。災難が降りかかっている中で悪口をぶつけ合う光景はまずもって醜い、とも。

- ◆ 今回の震災からの復興は考えが及ばないほどの規模となろう。業界では、ELV機構の栗山代表を長とする災害車両処理対策本部を設置し、現地自治体への協力体制を構築しつつある。既に、一部の団体に所属する仲間達が現地で活動を始めた。（編集子）